

野菜需給協議会幹事会の報告

今夏の全国的な猛暑などの著しい気象の変動により野菜の生育に大きな影響が生じ、全般的に野菜の価格が高めで推移したことから、「野菜需給協議会幹事会」を開催し、最近の野菜の需給・価格動向や野菜の供給確保に向けた取組等について協議した。

1. 日 時：平成 22 年 10 月 19 日（火） 11 時～12 時
2. 場 所：独立行政法人農畜産業振興機構北館 6 階大会議室
3. 参加幹事団体等：全国農業協同組合連合会
消費科学連合会
主婦連合会
全国地域婦人団体連絡協議会
日本生活協同組合連合会
(社)全国中央市場青果卸売協会
(財)食品産業センター
日本チェーンストア協会
中村靖彦 東京農業大学客員教授（座長）
農林水産省
(株)ウェザーマップ

4. 議事概要

- ・ 農林水産省から、10月15日に開催された第1回「野菜出荷安定対策本部」の概要について説明がなされた。
- ・ 最近の野菜の需給・価格動向や今後の産地における生育や出荷の見通しについて事務局及び全国農業協同組合連合会から、一部の品目を除き猛暑の影響から脱しつつあり、出荷量の回復と価格の落ち着きが見られる旨報告があった。
- ・ (株)ウェザーマップから、夏の猛暑及び今後の気象について説明がなされた。
- ・ 各幹事からのご意見は別添のとおり。

野菜需給協議会幹事会における意見

1. 今回の価格高騰に対する意見

- ・「原因と現状と見通し」の3点セットで野菜の状況を伝えてもらうことによって、安心感をもっていけるので情報提供は大切。
- ・産地の切り替わりがうまくいっていないことが報道によって正確に伝わったと感じているので的確な情報提供を継続してほしい。
- ・冷静な報道が多いなかで価格高騰をあおるようなメディアの取り上げ方もあった。
- ・確かに価格は高かったが小分け販売など小売店の工夫で買いやすい面もあった。
- ・前倒し出荷や規格外の出荷の効果は一時的なもので継続性はなく数量的にも限界がある。

2. 中期的な対策について

- ・今後も天候異常が発生すると考えられるので、産地も分散化できないかと感じている。
- ・特にたまねぎ、ばれいしょに関しては2年連続して北海道が不作だったので来年に向けて、安定供給に努めていただきたい。
- ・契約出荷を安定的に行うための方策が必要ではないか。
- ・家庭での調理技術が落ちている面もあるので、各自の料理の能力を上げていく工夫も必要。

3. 長期的な対策について

- ・暑さに強い品種の開発研究が必要ではないか。
- ・気象予測技術を向上させ、長期的な予測ができるような方策を関係方面に要請してほしい。
- ・安心安全をアピールするためには、国産野菜も検査体制を強化していく必要がある。
- ・少ない時に備えて、だぶつくほど大量に生産してほしいと消費者は思っていないので、皆で協力して長期的な戦略を考えていく必要がある。